2020年9月1日　―　つくり・うたい・ひろめ・つなぎあう　―　第620号（1）

音楽運動

日本音楽協議会　〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町３丁目10-15 富士ビル505号室　発行人　松本敏之
TEL　03-3221-1821　FAX 03-6369-3057　URL　http://nichionkyou.org　Email　nichion@yomogi.or.jp

インターネット音楽会2020を成功させよう「フィンランディア」の大合唱

８月号でお知らせしたインターネット音楽会２０２０で演奏する「フィンランディア」（希望の歌）のパート別デモ演奏音源を作成、公開しました。ぜひ、練習にご活用ください。

また、この「フィンランディア」（希望の歌）の合唱のための伴奏動画を、日音協ホームページ／YouTubeでアップロードしましたので、ぜひご活用、個人で、小グループでうたって、日音協坂口副会長のところに動画を送ってください。

■聴くことは
http://nichionkyou.org/interne.html
■ダウンロードしたい方は次のＵＲＬで。
ソプラノパート
http://nichionkyou.org/soprano.mp3
アルトパート
http://nichionkyou.org/alt.mp3
テナーパート
http://nichionkyou.org/tenor.mp3
バスパート
http://nichionkyou.org/bass.mp3
■ご応募、お待ちしております。

左の写真は、合唱のための伴奏を引き受けてくれた岩手県支部の高橋円（まどか）さんです。

上写真は、第41回はたらくものの音楽祭（秋田）のオープニングでの「フィンランディア」の合唱です。

思えば、この音楽祭の報告号（２００８、７月）から「音楽運動」に携わってきたんですね。（佐藤）

初めての「葉っぱのコンサート」!!

去る7月26日（日）午後2時から、富山市岩瀬にある喫茶「にしのみや」において「葉っぱのコンサート～いつも心に太陽をくちびるに歌を～」を企画開催いただき歌いました。

新型コロナウイルス禍の中、今回のコンサート開催に至るいきさつは、「はたらくものインターネット音楽祭」に出演できたことでした。息子のおかげで何とか間に合い、知り合いに観てくれるよう声掛けができ、見聞きしてもらえたことが良かったです。今回の会場の店主にも観ていただいたところ、お店の企画で歌わないかと誘っていただき開催に至りました。

当日は、お店が地域の皆さんなどに呼び掛けていただき15人ほどの参加でした。

プログラムは、「葉っぱの想い」と「みんなでうたおう」、アコ独奏を、途中10分の休憩を取って、２部構成で１時間30分になりました。

演奏曲は、磯野友一さんのアコ伴奏で「私は忘れない」「決意」「うたおう命の歌を」「私たちを縛っているものに対し（女の歌より）」「ねがい」、地元岩瀬に伝わる歌「飛び団子の歌」や「富山の名産」他童謡等全11曲と磯野さんのアコーディオン独奏「河は呼んでいる」「ムーンリバー」「トリンク　トリンク　トリンク」「少年時代」の４曲。

これまで「自治労コンサート」や県内各種集会、労組定期大会等ではずっと歌ってきましたが、長時間のコンサートは初めてで、とにかく声が出る様にと、睡眠時間の確保やら練習やらで緊張しまくりでした。

アンコールをいただき、いじめで自死された娘さんの33回忌を迎えられた女性からのリクエスト曲で「うたおう命の歌を」を歌って締めくくりました。

磯野友一さんには事後承諾にもかかわらず快く伴奏を引き受けて頂き、色々なアドバイスを受けながら練習を繰り返しました。当日は磯野滋子さんから（想いを届けて）のメッセージ入りの花束を貰いお二人には本当に感謝しています。

今回の貴重な体験が、次へのステップとなるように自分を労わりながら歌い続けます。（富山・加藤葉子）

加藤さんの熱意に承諾したものの、どんな方たちの集まりなのか、どんな会場なのか、マイクなしで加藤さんの声が持つのか、アコ一人でどこまでやれるのか、新コロナウイルス禍なのに歌えるのかなど…、不安はありました。しかし、始まってしまえば暖かい雰囲気で、アコにも興味を持っていただきやって良かったかなと思います。（富山・とも）

安倍首相 突然の辞意表明！

楽譜のかき方③　歌詞について

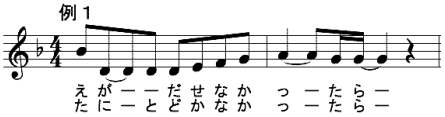
楽譜のかき方３回シリーズの最終回として、今月は、歌詞の書き方について書いてみます。

【促音】

今回は、詩：津谷さつきさん、曲：桜庭智英さんの「ありがとう」、日音協ソング2019幹事会推薦曲を題材にします。

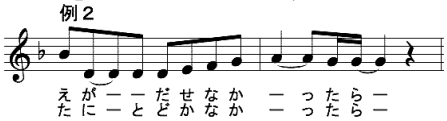
とてもいい曲だと思いますが、例１の部分、歌詞のつけ方がおかしいと思いませんか。（楽譜は３面に掲載）

例１



「なかっーたら」、促音「っ」のあとに長音「ー」をうたえというのは無理があります。音符を変えずに促音「っ」と長音「ー」だけ入れ替えると例２のようになります。

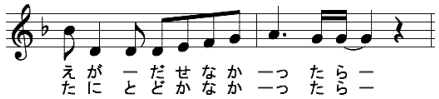
例２



例２でもいいと思いますが、これを機会に、促音「っ」を表すのにいろんな表し方がある、それは長音「ー」との組み合わせも含めてですが、いろんな表し方をご紹介したいと思います。

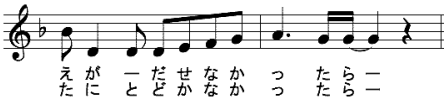
７月号のタイの話に戻ってしまいますが、例２の楽譜は例３のようにかくことができます。桜庭さんは何か思いがあって例３のようにしないでタイで表したのでしょうか、私にはよくわからないところです。

例３



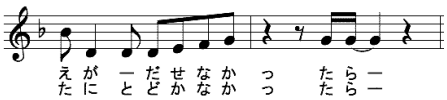
長音と促音との組み合わせ「ーっ」に抵抗を感じる方は、例４のようにかくようです。笠木博逸さんの「人生は晴れの日ばかりじゃないから」（日音協ソング2019応募曲）もそんな部分があります。

例４



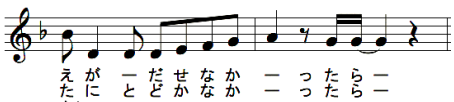
例４の楽譜を見て、付点四分音符全体がつまる（促音）のだったら、例５のようにうたうのではないかと感じる方があるかも知れません。

例５

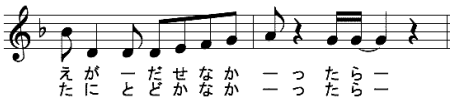


例５は、たぶん極端ですよね。多くの人は、例６か例７のようにうたうことでしょう。

例６



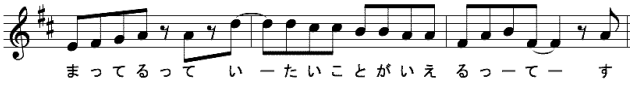
例７



私は、例３から例７までのかき方のうち、どれが正しいとか間違っているとか、どれがおすすめとか言うつもりはありません。例３と例４とでは、人によってどれだけ「か」を伸ばすかに幅が生じるでしょう。それがいいと思う方もあるでしょう。例５は極端としても、例６、例７のようにかけば、「か」を伸ばす長さは相当そろえることができそうです。例３から例７までのどれか（もっとあり得るでしょう）を、楽譜のかき手（作曲者や編曲者）が選べばいいのですが、こういういろんな可能性があることを知って選べば、表現に幅が出てきそうな気がします。

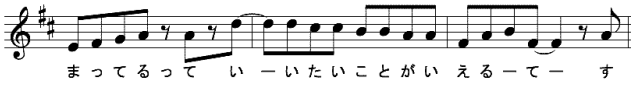
例８は日音協ソング2018応募曲集（『音楽運動』2018年９月１日づけ号外）の「だから言いたい事を言おうよ」（詩・曲＝ごとう雅裕）です。

例８



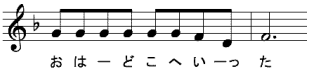
促音「っ」のあとに長音「ー」があるのは例１と同じくまずいと思います。もっとも、例８はかき間違いで、同じ曲の別の部分をみれば、例９のようにかこうとしていた、ということがわかります。

例９



例９の「いえるーて」はいただけません、「いえるって」としたいところ（後でもう一度ふれます）。ただ、（まってる）「っ」（て）の促音を八分休符にあてている（ひとつの味を出していますね）のと違いを際立たせていることはわかります。例10は日音協ソング2018応募曲の「ねえ　郵便屋さん」（詩・曲＝宮脇昌典）です。

例10

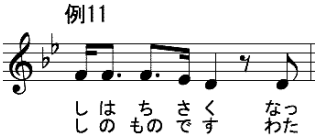


テンポにもよりますが、例10のように八分音符に「ーっ」をあてるのは珍しいかも知れません。（固定ド）レをうたってからつまる（促音）という作者のこだわりが感じられます。

【日本語らしく書く】

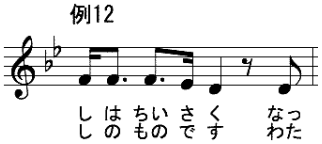
例11は日音協ソング2018応募曲「ものさしを当てられて」（詩＝山本英二・高野直美、曲＝山本英二）です。

例11

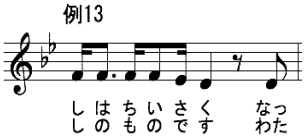


「ちさく」はあまりいただけません。例12または例13のように「ちいさく」と書くのがいいと思います。

例12



例13



楽譜は省略しますが、例８にあげた「だから言いたい事を言おうよ」は、「いおーーよ」「いえるーて」「ゆーきーきづけるだろー」（ゆうきづける、の間違いか）というように、普通の日本語からしたらちょっと変な書き方の部分が多いです。作者のこだわりがあるのかも知れませんが、私としてはやはり「いおうよ」「いえるって」「だろう」と書いてほしいところ。

【再びシャープとフラット】

余談ですが、７月13日朝、ＮＨＫ－ＦＭの「古楽の楽しみ」、鈴木優人さんの「中世・ルネッサンスのオルガン音楽」で、６時40分ごろに、マントヴァ（イタリア）の聖バルバラ教会にある1565年製のオルガンによる演奏が紹介されました。このオルガン、黒鍵がふたつに分かれていて、例えば（固定ド）ソの白鍵とラの白鍵の間の黒鍵がソ♯とラ♭に分かれている、とのことでした。言い換えれば、ソ♯とラ♭とが微妙に音程が違う調律というわけです。調べてみると、Wikipedia にも「分割鍵盤」として載っていました。

（松本敏之）

広島平和宣言

1945年８月６日、広島は一発の原子爆弾により破壊し尽くされ、「75年間は草木も生えぬ」と言われました。しかし広島は今、復興を遂げて、世界中から多くの人々が訪れる平和を象徴する都市になっています。

今、私たちは、新型コロナウイルスという人類に対する新たな脅威に立ち向かい、踠（もが）いていますが、この脅威は、悲惨な過去の経験を反面教師にすることで乗り越えられるのではないでしょうか。

およそ100年前に流行したスペイン風邪は、第一次世界大戦中で敵対する国家間での「連帯」が叶（かな）わなかったため、数千万人の犠牲者を出し、世界中を恐怖に陥（おとしい）れました。その後、国家主義の台頭もあって、第二次世界大戦へと突入し、原爆投下へと繋（つな）がりました。

こうした過去の苦い経験を決して繰り返してはなりません。そのために、私たち市民社会は、自国第一主義に拠（よ）ることなく、「連帯」して脅威に立ち向かわなければなりません。原爆投下の翌日、「橋の上にはズラリと負傷した人や既に息の絶えている多くの被災者が横たわっていた。大半が火傷（やけど）で、皮膚が垂れ下がっていた。『水をくれ、水をくれ』と多くの人が水を求めていた」という惨状を体験し、「自分のこと、あるいは自国のことばかり考えるから争いになるのです」という当時13歳であった男性の訴え。

昨年11月、被爆地を訪れ、「思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です」と発信されたローマ教皇の力強いメッセージ。そして、国連難民高等弁務官として、難民対策に情熱を注がれた緒方貞子氏の「大切なのは苦しむ人々の命を救うこと。自分の国だけの平和はありえない。世界はつながっているのだから」という実体験からの言葉。これらの言葉は、人類の脅威に対しては、悲惨な過去を繰り返さないように「連帯」して立ち向かうべきであることを示唆しています。

今の広島があるのは、私たちの先人が互いを思いやり、「連帯」して苦難に立ち向かった成果です。実際、平和記念資料館を訪れた海外の方々から「自分たちのこととして悲劇について学んだ」、「人類の未来のための教訓だ」という声も寄せられる中、これからの広島は、世界中の人々が核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて「連帯」することを市民社会の総意にしていく責務があると考えます。

ところで、国連に目を向けてみると、50年前に制定された NPT（核兵器不拡散条約）と、３年前に成立した核兵器禁止条約は、ともに核兵器廃絶に不可欠な条約であり、次世代に確実に「継続」すべき枠組みであるにもかかわらず、その動向が不透明となっています。世界の指導者は、今こそ、この枠組みを有効に機能させるための決意を固めるべきではないでしょうか。

そのために広島を訪れ、被爆の実相を深く理解されることを強く求めます。その上で、NPT 再検討会議において、NPT で定められた核軍縮を誠実に交渉する義務を踏まえつつ、建設的対話を「継続」し、核兵器に頼らない安全保障体制の構築に向け、全力を尽くしていただきたい。

日本政府には、核保有国と非核保有国の橋渡し役をしっかりと果たすためにも、核兵器禁止条約への署名・批准を求める被爆者の思いを誠実に受け止めて同条約の締約国になり、唯一の戦争被爆国として、世界中の人々が被爆地ヒロシマの心に共感し「連帯」するよう訴えていただきたい。また、平均年齢が83歳を超えた被爆者を始め、心身に悪影響を及ぼす放射線により生活面で様々な苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」の拡大に向けた政治判断を、改めて強く求めます。

本日、被爆75周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和２年（2020年）８月６日
広島市長　松井一実

原爆を許すまじ

原水爆禁止高岡協議会の「被爆者慰霊平和祈念式」が、今年は８月９日（日）午後5時30分から、高岡市大手町の大仏寺で行われ、参加者約 30 人が核兵器のない平和な世界の実現を祈りました。

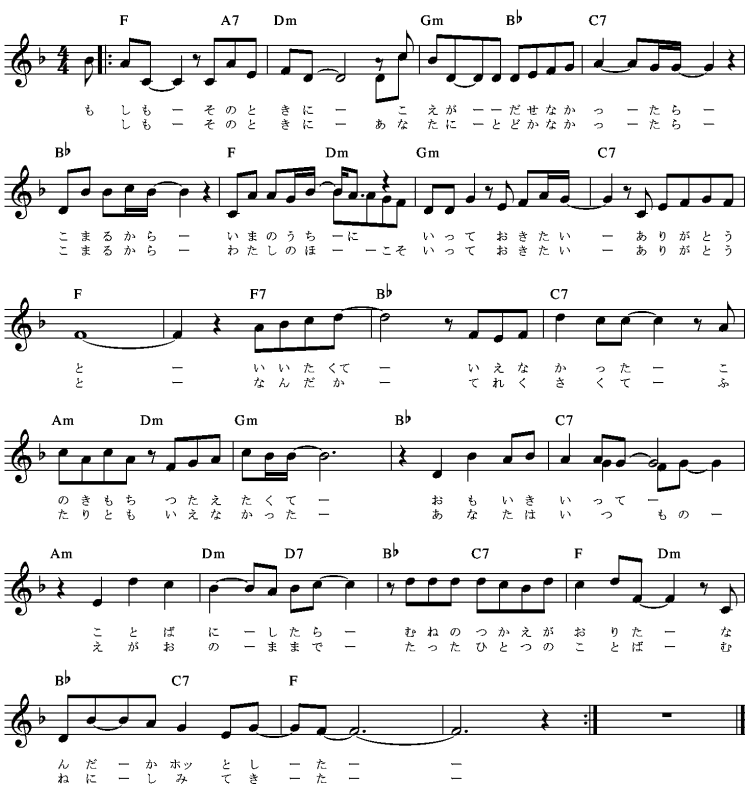
住職の読経、参加者の焼香のあと、土岐会長より「原爆のむごさ、悲惨さを心に刻み、平和の願いを新たにしてほしい」と呼びかけがありました。ほか、来賓の挨拶があり、最後に全員で「原爆を許すまじ」を歌いました。

（富山・磯野友一）

＜２面の記事の関連楽譜＞

ありがとう

詩：津谷さつき
曲：桜庭　智英



長崎平和宣言

私たちのまちに原子爆弾が襲いかかったあの日から、ちょうど 75 年。４分の３世紀がたった今も、私たちは「核兵器のある世界」に暮らしています。

どうして私たち人間は、核兵器を未（いま）だになくすことができないでいるのでしょうか。人の命を無残に奪い、人間らしく死ぬことも許さず、放射能による苦しみを一生涯背負わせ続ける、このむごい兵器を捨て去ることができないのでしょうか。

75 年前の８月９日、原爆によって妻子を亡くし、その悲しみと平和への思いを音楽を通じて伝え続けた作曲家・木野普見雄さんは、手記にこう綴（つづ）っています。

私の胸深く刻みつけられたあの日の原子雲の赤黒い拡（ひろ）がりの下に繰り展（ひろ）げられた惨劇、ベロベロに焼けただれた火達磨（ひだるま）の形相や、炭素のように黒焦げとなり、丸太のようにゴロゴロと瓦礫（がれき）の中に転がっていた数知れぬ屍体（したい）、髪はじりじりに焼け、うつろな瞳でさまよう女（ひと）、そうした様々な幻影は、毎年めぐりくる八月九日ともなれば生々しく脳裡（のうり）に蘇（よみがえ）ってくる。

被爆者は、この地獄のような体験を、二度とほかの誰にもさせてはならないと、必死で原子雲の下で何があったのかを伝えてきました。しかし、核兵器の本当の恐ろしさはまだ十分に世界に伝わってはいません。新型コロナウイルス感染症が自分の周囲で広がり始めるまで、私たちがその怖さに気づかなかったように、もし核兵器が使われてしまうまで、人類がその脅威に気づかなかったとしたら、取り返しのつかないことになってしまいます。

今年は、核不拡散条約（NPT）の発効から 50 年の節目にあたります。

この条約は、「核保有国をこれ以上増やさないこと」「核軍縮に誠実に努力すること」を約束した、人類にとってとても大切な取り決めです。しかしここ数年、中距離核戦力（INF）全廃条約を破棄してしまうなど、核保有国の間に核軍縮のための約束を反故（ほご）にする動きが強まっています。それだけでなく、新しい高性能の核兵器や、使いやすい小型核兵器の開発と配備も進められています。その結果、核兵器が使用される脅威が現実のものとなっているのです。

“残り 100 秒”。地球滅亡までの時間を示す「終末時計」が今年、これまでで最短の時間を指していることが、こうした危機を象徴しています。

３年前に国連で採択された核兵器禁止条約は「核兵器をなくすべきだ」という人類の意思を明確にした条約です。核保有国や核の傘の下にいる国々の中には、この条約をつくるのはまだ早すぎるという声があります。そうではありません。核軍縮があまりにも遅すぎるのです。

被爆から 75 年、国連創設から 75 年という節目を迎えた今こそ、核兵器廃絶は、人類が自らに課した約束“国連総会決議第一号”であることを、私たちは思い出すべきです。

昨年、長崎を訪問されたローマ教皇は、二つの“鍵”となる言葉を述べられました。一つは「核兵器から解放された平和な世界を実現するためには、すべての人の参加が必要です」という言葉。もう一つは「今、拡大しつつある相互不信の流れを壊さなくてはなりません」という言葉です。

世界の皆さんに呼びかけます。

平和のために私たちが参加する方法は無数にあります。

今年、新型コロナウイルスに挑み続ける医療関係者に、多くの人が拍手を送りました。被爆から 75 年がたつ今日まで、体と心の痛みに耐えながら、つらい体験を語り、世界の人たちのために警告を発し続けてきた被爆者に、同じように、心からの敬意と感謝を込めて拍手を送りましょう。

この拍手を送るという、わずか 10 秒ほどの行為によっても平和の輪は広がります。今日、大テントの中に掲げられている高校生たちの書にも、平和への願いが表現されています。折り鶴を折るという小さな行為で、平和への思いを伝えることもできます。確信を持って、たゆむことなく、「平和の文化」を市民社会に根づかせていきましょう。

若い世代の皆さん。新型コロナウイルス感染症、地球温暖化、核兵器の問題に共通するのは、地球に住む私たちみんなが“当事者”だということです。あなたが住む未来の地球に核兵器は必要ですか。核兵器のない世界へと続く道を共に切り開き、そして一緒に歩んでいきましょう。

世界各国の指導者に訴えます。

「相互不信」の流れを壊し、対話による「信頼」の構築をめざしてください。今こそ、「分断」ではなく「連帯」に向けた行動を選択してください。来年開かれる予定の NPT 再検討会議で、核超大国である米ロの核兵器削減など、実効性のある核軍縮の道筋を示すことを求めます。

日本政府と国会議員に訴えます。

核兵器の怖さを体験した国として、一日も早く核兵器禁止条約の署名・批准を実現するとともに、北東アジア非核兵器地帯の構築を検討してください。「戦争をしない」という決意を込めた日本国憲法の平和の理念を永久に堅持してください。

そして、今なお原爆の後障害に苦しむ被爆者のさらなる援護の充実とともに、未だ被爆者と認められていない被爆体験者に対する救済を求めます。

東日本大震災から９年が経過しました。長崎は放射能の脅威を体験したまちとして、復興に向け奮闘されている福島の皆さんを応援します。

新型コロナウイルスのために、心ならずも今日この式典に参列できなかった皆様とともに、原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、長崎は、広島、沖縄、そして戦争で多くの命を失った体験を持つまちや平和を求めるすべての人々と連帯して、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くし続けることを、ここに宣言します。

2020 年（令和２年）８月９日
長崎市長　田上富久

原水禁ＨＰを見よう

被爆７５周年原水爆禁止世界大会オンライン集会・広島大会
https://www.youtube.com/watch?v=etnx6t8sOmg
48 分 33 秒から
広島の方々によるリレー合唱「原爆を許すまじ」

被爆７５周年原水爆禁止世界大会オンライン集会・長崎大会
https://www.youtube.com/watch?v=wfcaa00p6hA
44 分 02 秒から
全国の高校生によるリレー合唱「この声を、この心を」

安倍首相のごあいさつ
気をつけよう　コピペの使い回しとやる気なさ

本日ここに、被爆 75 周年の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊（みたま）に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界を覆った今年、世界中の人々がこの試練に打ち勝つため、今まさに奮闘を続けています。

75 年前の今日、一木（いちぼく）一草（いっそう）もない焦土と化したこの街が、市民の皆様のご努力によりこのように美しく復興を遂げたことに、私たちは改めて、乗り越えられない試練はないこと、そして、平和の尊さを強く感じる次第です。

長崎と広島で起きた惨禍、それによってもたらされた人々の苦しみは、二度と繰り返してはなりません。唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けた国際社会の努力を一歩一歩、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命です。

現在のように、厳しい安全保障環境や、核軍縮をめぐる国家間の立場の隔たりがある中では、各国が相互の関与や対話を通じて不信感を取り除き、共通の基盤の形成に向けた努力を重ねることが必要です。

特に本年は、被爆 75 年という節目の年であります。我が国は、非核三原則を堅持しつつ、立場の異なる国々の橋渡しに努め、各国の対話や行動を粘り強く促すことによって、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取り組みをリードしてまいります。

本年、核兵器不拡散条約（NPT）が発効 50 周年を迎えました。同条約が国際的な核軍縮・不拡散体制を支える役割を果たし続けるためには、来たるべきNPT運用検討会議を有意義な成果を収めるものとすることが重要です。我が国は、結束した取り組みの継続を各国に働きかけ、核軍縮に関する「賢人会議」の議論の成果も活用しながら、引き続き、積極的に貢献してまいります。

「核兵器のない世界」の実現に向けた確固たる歩みを支えるのは、世代や国境を越えて核兵器使用の惨禍やその非人道性を語り伝え、継承する取り組みです。我が国は、被爆者の方々と手を取り合って、被爆の実相への理解を促す努力を重ねてまいります。

被爆者の方々に対しましては、保健、医療、福祉にわたる支援の必要性をしっかりと受け止め、原爆症の認定について、できる限り迅速な審査を行うなど、高齢化が進む被爆者の方々に寄り添いながら、今後とも、総合的な援護施策を推進してまいります。

結びに、永遠の平和が祈られ続けている、ここ長崎市において、核兵器のない世界と恒久平和の実現に向けて力を尽くすことをお誓い申し上げます。原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに、参列者、長崎市民の皆様のご平安を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

令和２年８月９日
内閣総理大臣　安倍晋三

本日ここに、被爆 75 周年の広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が挙行されるに当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊（みたま）に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界を覆った今年、世界中の人々がこの試練に打ち勝つため、今まさに奮闘を続けています。

75 年前、一発の原子爆弾により廃墟（はいきょ）と化しながらも、先人たちの努力によって見事に復興を遂げたこの美しい街を前にした時、現在の試練を乗り越える決意を新たにするとともに、改めて平和の尊さに思いを致しています。

長崎と広島で起きた惨禍、それによってもたらされた人々の苦しみは、二度と繰り返してはなりません。唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けた国際社会の努力を一歩一歩、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命です。

現在のように、厳しい安全保障環境や、核軍縮をめぐる国家間の立場の隔たりがある中では、各国が相互の関与や対話を通じて不信感を取り除き、共通の基盤の形成に向けた努力を重ねることが必要です。

特に本年は、被爆 75 年という節目の年であります。我が国は、非核三原則を堅持しつつ、立場の異なる国々の橋渡しに努め、各国の対話や行動を粘り強く促すことによって、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取り組みをリードしてまいります。

本年、核兵器不拡散条約、NPT が発効 50 周年を迎えました。同条約が国際的な核軍縮・不拡散体制を支える役割を果たし続けるためには、来たるべきNPT運用検討会議を有意義な成果を収めるものとすることが重要です。我が国は、結束した取り組みの継続を各国に働きかけ、核軍縮に関する「賢人会議」の議論の成果を活用しながら、引き続き、積極的に貢献してまいります。

「核兵器のない世界」の実現に向けた確固たる歩みを支えるのは、世代や国境を越えて核兵器使用の惨禍やその非人道性を語り伝え、継承する取り組みです。我が国は、被爆者の方々と手を取り合って、被爆の実相への理解を促す努力を重ねてまいります。

被爆者の方々に対しましては、保健、医療、福祉にわたる支援の必要性をしっかりと受け止め、原爆症の認定について、できる限り迅速な審査を行うなど、高齢化が進む被爆者の方々に寄り添いながら、今後とも、総合的な援護施策を推進してまいります。

結びに、永遠の平和が祈られ続けている、ここ広島市において、核兵器のない世界と恒久平和の実現に向けて力を尽くすことをお誓い申し上げます。原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに、参列者、広島市民の皆様のご平安を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

令和２年８月６日
内閣総理大臣　安倍晋三

初めての「はたらくものインターネット音楽祭」

来年こそは、顔を合わせ、声を合わせた音楽祭を！

4月、第53回はたらくものの音楽祭の中止が決定された。東京都支部も発表曲の準備を始めたところで感染症の広がりにあい、動きが取れなくなっていたので、中止はやむを得ないと感じた。

音楽祭の準備は一年がかりだ。開催予定地であった千葉県支部も準備の大詰めを迎えていたことだろう。企画されていた『地底のうた』の大合唱は、東京を含む近県支部からも参加し、練習を重ねていた。関わってきた仲間はどんなに悔しかったかと思う。

5月中旬、自粛が余儀なくされる中、感染症禍に乗じた政権の不穏な動きの数々に、こんな時だからこそ我々の歌を！と、『インターネット音楽祭』が呼びかけられ、演奏動画が募集された。期限は3週間！なんと慌ただしい！

そして心配になる。労働運動は集まってこそ力。そのなかで活動してきた私たちも、集い歌うことが基本だ。それができない今、いったいどのくらいの演奏が集まるのか。支部としての演奏は無理だろう。プログラムがスカスカになっては格好悪い。一方かく言う私は息子とのユニットなので演奏は家内作業だ。あんくるんの仲間も都心を通らず集まれる。これは出さねばならぬと思った。

自撮りなんてやったことはないし、技術もない。スマホをガムテープで固定して自分でスイッチを押す。こんな動画をひとさまに見せていいものだろうか。ああ、ステージって偉大だ。音響があって照明があって、みんなで演奏の空間を作ってくれる。改めて心から感謝。己の無力を感じつつ、『Rico & Tatsu』と『あんくるん』の演奏をなんとか録画し、投稿した。当日、インターネット音楽祭には、12の団体・個人の動画があがった（公開後に追加有り）。緊急事態宣言が解除された時期とも重なったからか、集まって演奏ができたグループもあった。技ありのメンバーがいる支部はリモート演奏を見事に編集してきた。通常の音楽祭だと時間制限があるため演奏だけで終わってしまうのだが、投稿動画の中には日常活動が垣間見えるものや、演奏者の曲への想いや活動の背景に触れられる場面もあった。

一回きりで終わるステージと違って、何度も見られる動画は『見せる』ことの得手・不得手を際立たせたように思う。画像や音の精度もそうだが、観客のいないところで見えない聞き手に向かって歌うことは結構難しい。改めて自分の演奏をとらえなおす機会となった。

音楽祭の最後は『インターナショナル』。さすがにこの歌は腕に覚えアリと言う感じに、堂々と視線を上げて歌う画像が集まっていた。そして四部合唱。やっぱり合唱は良い。声の溶け合う感覚に胸が熱くなる。観ていた反原発うたいたいの仲間から早速メールが届いた。『万国のプロレタリア、団結せよ！』。思いは同じだ。共に在りたい気持ちが募っていく。これが歌だ。

再生を終えたパソコン画面のこちら側で、私は腹の底から歌を欲した。仲間と歌える日が待ち遠しい。来年こそは、顔を合わせて声を合わせて音楽祭をしよう！

（東京・森理子）

水道橋だより

▼先月号で紹介した2020東北北ブロック合宿は、持ち回りの実行委員会の結果、中止を確認しました。が、秋田は「フィンランディア」の練習会（9/6）と収録（9/20）の予定をたてたそうです。　（佐藤）

▼千葉の瓦井です。千葉県ではまだ会場が利用出来ませんので「ミール」としての練習が再開出来ない状況ですが、15日にJR千葉駅前で行われました反戦平和マラソントークに歌で参加してきましたので報告します。▼今年はコロナの関係もあり11時半から12時半までと短かったのですが、僕自身がマスクの着用を忘れ一旦家に戻ったので遅刻してしまいました。いつもはどなたかがマイクを持ってくださり日音協としての出番もあるのですが、コロナの関係もあるので遠慮し、スピーチをする人から少し離れた所でマイクなしでBGMのように歌いました。歌った歌は「戦争に力貸さない」「キャンドルに火を灯して」「命を守ろう」「人は」「オスプレイは出て行け」「なんだかんだあんだかんだ」「いつかきっと」等。鈴木さんと一緒に歌う歌も用意したのですが、僕が遅刻した関係で鈴木さんは既にチラシ配布の手伝いをしていましたので一人で歌いました。▼暑かったです。コロナの関係でしょうか、人の通りもいつもより少なかったですね。　（メール）

▼広島市長、長崎市長、安倍首相のあいさつを掲載しました。いろいろ想いはありますが、記録として残しておきたいと思います。原水禁のホームページもご覧ください。（佐藤）

■28日、安倍首相、突然辞意表明！

▼安倍首相は8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式で式辞を述べた。昨年まで繰り返し用いてきた「歴史」という文言が消えた。一方で、首相が外交・安全保障戦略を語る時に使う「積極的平和主義」が初めて盛り込まれた。アジアの近隣諸国への加害責任には今年も言及せず、戦後75年の節目のメッセージは「安倍色」が強くにじんだものだった。また、首相は「私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い犠牲の上に築かれた」とも述べているが、違和感満載だ。為政者や生き残った側が責任を回避し、戦没者の命を軽んじ加害者としての歴史を否定しているのは明らかだ。▼テレビでは、今年も戦争特集が数多く組まれたが、日本が犯した加害責任に触れるものはあっただろうか。政権への忖度だろうか。戦争の悲惨さだけが強調され侵略の歴史を軽視するのでは日本の進路が危惧されるばかりだ。▼同日、小泉進次郎環境相ら4閣僚が靖国神社を参拝した。終戦の日の閣僚参拝は4年ぶりで、4人は安倍政権で最多だった。小泉氏の人寄せパンダ的言動を新しそうに評価している人は少なくないが、結局、彼の支持層は、父親の純一郎氏を受け継ぐもので古くさい誤った歴史観を持つ人たちが多いようだ。

どん行

（134）

飯島貞親